

人工地盤と自然が作り出す親和性

コンセプト

近年日本では 埋め立てによる人工地盤の上で

人工地盤は人工物であるが、そこに植物が生え、生態系があれば自然のものと見えることができる。あいまいなものである。

これまでの人工地盤と自然の関係は、水平に広がる地盤に植物を植えるというプロセスで進まれてきた。これは建築物に関しても同じことがいえるだろう。

このことから、人工地盤の上になる自然は、人工物との親和性を持つようなものであるべきだと考えた。



断面図 S=1:100

01. グリーンベルト

福岡県福岡市東区の福岡アイランドシティにある緑地帯で、島を縦断するように通っている。

福岡アイランドシティは博多湾に建設された人工島で、環境との共生を図る豊かな緑地空間をつくるなど、

質の高い都市空間を目指し計画されている。

グリーンベルトは、都市の居住区画と都市機能とを緑地でつなぐ役割をしており、

開発された都市の少ない自然の場所として住民の憩いの場となっている。



02. つくられた地盤と自然との間わり方

人工島につくられた地盤に対して、環境共生を図り作られた緑地帯は、どこか浮いた印象を受ける。

原因として水平に広がる地盤に植えられた植物と垂直に伸びるマンションなどの建築が、

親和性を持たないことが挙げられるのではないだろうか。

これまでの緑地帯としての役割を持たせつつ、自然と建築の親和性を図る方法として、

アーチ構造の建築を従来のGLの下に入り込ませることで本設計を行う。

アーチの曲面が、水平だった地盤をゆるやかに起伏させ、建築構造が緑地帯の緑にリズムを与える。

02. アーチ構造による空間構成

a. アーチによる採光



背の高いアーチの地上部分を露出させ、
光を取り入れる窓となる。

b. 開口の高さの操作による空間構成

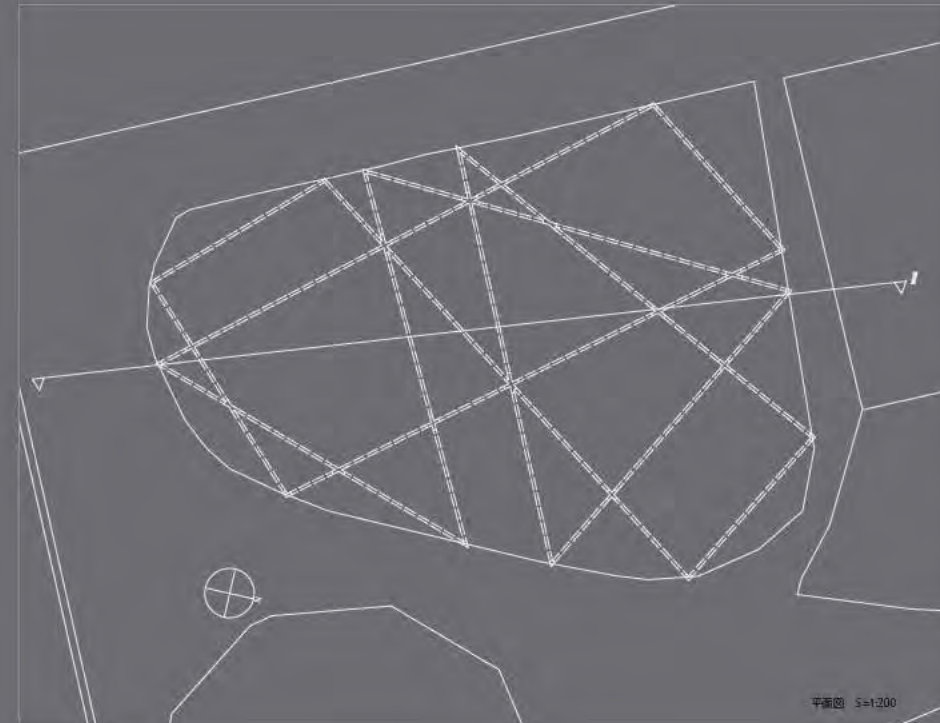


開口の高さをあえて低くすることにより
直接のつながりを持たない
現代的な人とのかわり方が生まれる

c. アーチによる空間の広がり



無造作に配置されたアーチは
緩やかに空間を仕切りつつ
多様な地との居場所を生む。



平面図 S=1:200



従来の水平に伸びた地盤

水平の地盤に緑も、建屋も同じアプローチで計画される。

展開する建築

アーチにより起伏した地盤は、地盤にリズムを生み
新しい人と自然の触れ合う場となる。

04. picture

